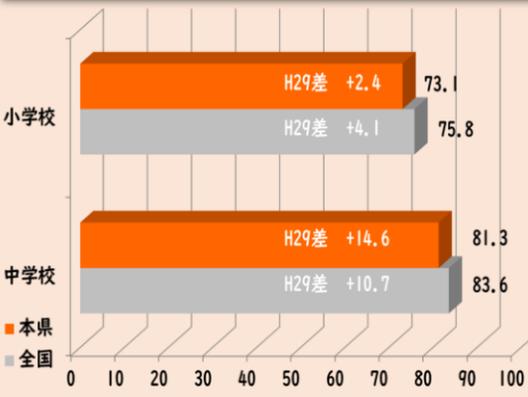


主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況(学校質問紙調査)

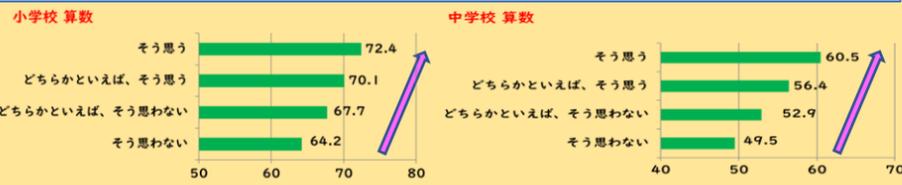
児童生徒は授業で、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている(%)

小・中学校ともに全国平均を下回っていますが、平成29年度に比べ、その割合は増加しており、授業改善の成果が見られます。

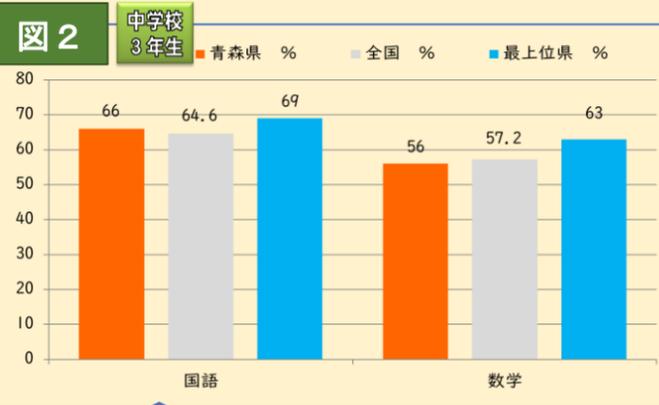
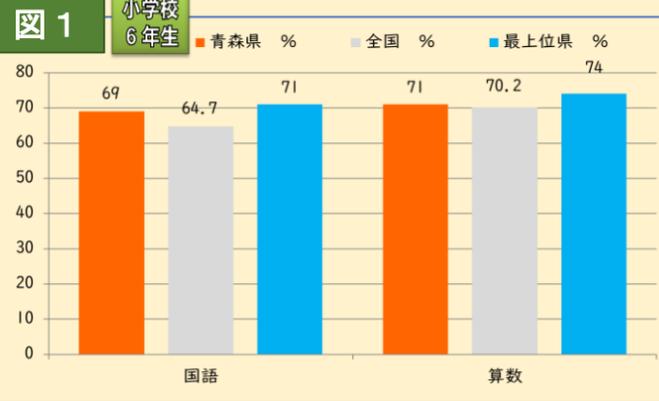
左図の結果から、各校において、次のことに留意した授業改善に引き続き取り組む必要があります。・「個別最適な学び」が進められるよう、児童生徒の成長やつまずき、悩みなどの一層の理解に努め、個々の興味・関心・意欲等を踏まえ、これまで以上にきめ細かく指導・支援する。・「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、探究的な学習や体験活動等を通じた児童生徒同士による「協動的な学び」の充実を図る。



【参考】質問「児童生徒は、(中略)話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか」への全国の回答と平均正答率(%)



学力の状況と対策(教科に関する調査)

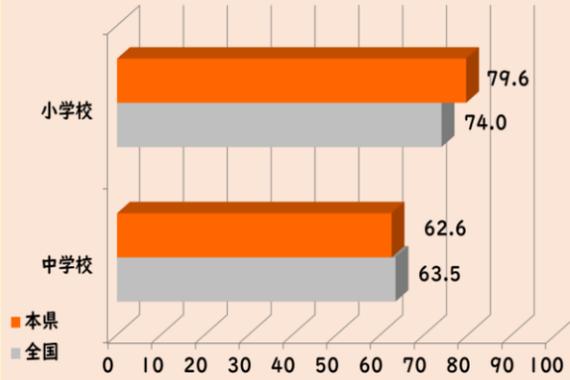


本県の平均正答率を全国や最上位県と比較すると、小・中学校ともに、全ての教科で平均正答率が全国平均を上回るか同程度であり、概ね良好な状況にあります。今後は、児童・生徒質問紙調査と学校質問紙調査の結果を踏まえ、主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組を推進することで、資質・能力の育成に努めて参ります。

学習習慣の状況と対策(児童・生徒質問紙調査)

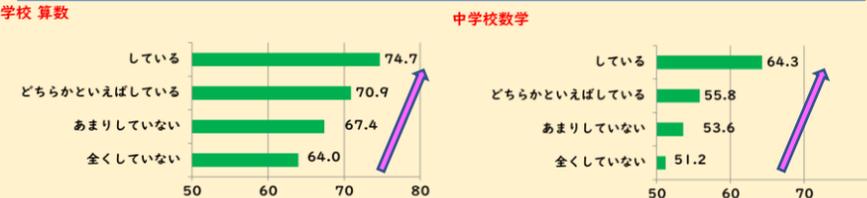
家で自分で計画を立てて勉強する(学校の予習・復習を含む)(%)

本県の児童生徒は家で自分で計画を立てて勉強している割合が全国と比べ、同程度か高い傾向にあります。



左図の結果から、今後も、児童生徒が個々の習熟の状況に応じて家庭学習を計画的に行うことができるよう、指導を継続することが大切です。

【参考】質問「家で自分で計画を立てて勉強しているか」への青森県の回答と平均正答率(%)

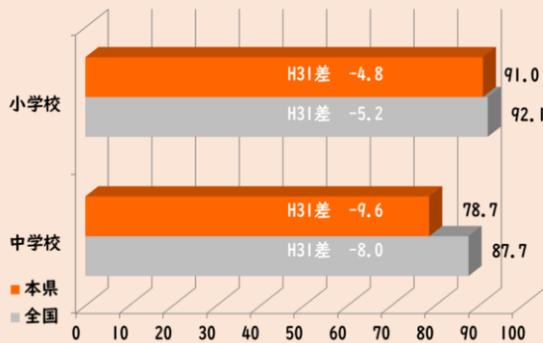


結果の活用状況と対策(学校質問紙調査)

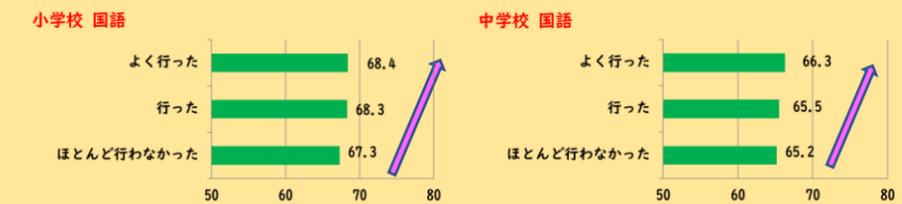
平成31年度(令和元年度)調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した(%)

小・中学校ともに全国平均を下回るとともに、前回調査に比べ、その割合が減少しています。

左図の結果から、各校において、本調査結果の活用について、次のことに留意した取組が必要です。・教科に関する調査の結果について、各校の状況に即した多面的な分析を行い、指導上の課題を明らかにする。・質問紙調査の結果について、児童生徒の学習意欲等の具体的な状況を学力の調査結果と組み合わせ分析し、取り組むべき課題を明らかにする。



【参考】質問「平成31年度(令和元年度)調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用した」への青森県の回答と平均正答率(%)

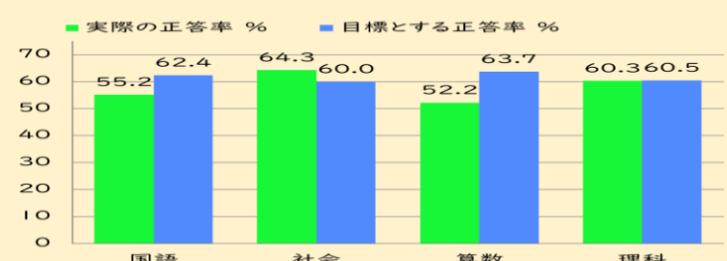


学力の状況(過去の調査結果から)

平成30年度全国学力・学習状況調査(R3中3が小6時)



平成29年度県学習状況調査(R3中3が小5時)

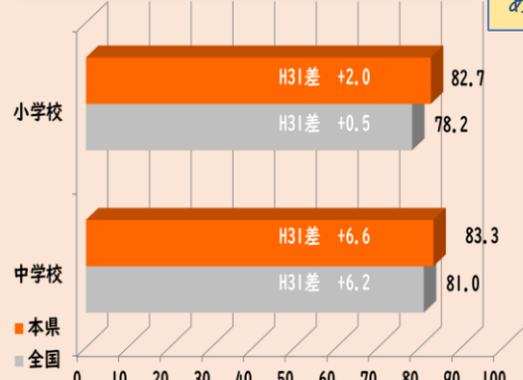


平成29年度県学習状況調査では、国語と算数において目標とされた正答率に届きませんでした。そこで、自校の分析を踏まえ、実施報告書を活用した授業改善を求めた結果、平成30年度全国学力・学習状況調査では、平均正答率が全国平均を上回りました。

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業への取組状況と対策(児童・生徒質問紙調査)

前年度までに受けた授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた(%)

本県の児童生徒は授業で、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる割合が全国と比べて高い傾向にあります。



左図の結果から、今後も問題発見・解決能力等の「学習の基盤となる資質・能力」を育成することができるよう、各教科等の特質を生かした指導を継続することが大切です。

【参考】質問「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた」への青森県の回答と平均正答率(%)

